

在宅医療部会だより

栗原誠一、増田智栄子、浅井俊弥
野村有子、林 正幸、渡辺知雄

第10回勉強会報告

日 時：平成15年 9月25日（木）午後7時

会 場：ホテルリッチ横浜

参加者：医師44名、コメディカル117名；計161名

共 催：興和新薬

講演テーマならびに講師：「褥瘡予防・管理のベストプラクティス」

金沢大学医学部保健学科教授

東京大学医学系研究科・健康科学・老年看護学分野教授併任 真田弘美先生

講演内容：

会場を埋め尽くす過去最高の出席者の熱気で始まりました。まず、浅井先生から神奈川県皮膚科医会のホームページの解説があり、各医療機関の詳細がわかり往診可能な医師を検索できるようになります。10月半ば開設の予定です。

次にメインの真田先生のご講演です。褥瘡は予防に始まり、予防に終わる。早期発見、早期治癒がゴールですが、アメリカでは褥瘡Ⅰ、Ⅱ度が70%に対し、日本はⅢ、Ⅳ度が70%が現実です。これは、褥瘡の治療開始時期が遅いためと、アメリカ人と日本人の老人の体型が異なるためです。一時30度ルールと盛んに言われた時期がありましたが、日本人は臀筋がなく、骨突出もあり、除圧には体位交換ではなく早くからエアーマットを導入するのが一番です。エアーマットにはトライセル、ビッグセル等ありますが、可動性にあったものを選びます。また、エアーマットは、ウレタンマットよりは少ないですが湿気がこもりますので、換気システムを付加したビッグセルエキスパートというものも開発しました。

次に気をつけなければならないのが、感染予防です。ポケットは洗浄するのが一番ですが、何で洗浄するとよいか検討しました。創周囲を弱酸性石鹼で洗浄すると創部の細菌増殖がみられず、創治癒日数が31日から18.2日に短縮しました。また、創部の水道水洗浄と生食洗浄の違いをみましたが細菌数に有意差はありませんでした。洗浄水の温度は38度の加温水と25度の常温水を比較しましたが、加温水の方がポケット内部の温度も下がり白血球の貪食作用が妨げられることはありませんでした。

昨年の褥瘡学会で創のアセスメントにDESIGNが提唱されましたが、G（granulation）とN（necrosis）に評価者のばらつきがみられるので基準化が当面の課題となります。

以上、褥瘡の管理・予防には、骨突出に気をつけて早期からエアーマットを使用して除圧をし、創を洗浄して感染の予防に心がけることが大切です。

以上

広報委員会だより

木花 光

当委員会は浅井俊弥、川口博史、塩谷千賀子、野村有子、林正幸、宮本秀明の各先生と小生より成り、平成15年8月末に15年度第1回編集会議を開きました。

「神皮」10号は故原紀道先生の御人徳により追悼文が多数集まり、印刷費用も大分高くなりましたが、広告もたくさんいただくことができ、9号に引き続き黒字で発行できました。メーカーの皆様には感謝いたします。

今までの号では顔写真が小さかったのですが、せっかくのせるのですから、もっと大きくしてはとの意見がでました。

10号の表紙は、中野政男元会長のお嬢様の祐美子様をお願いしましたが、おかげでぜひ手に取ってみたいくなる楽しい表紙になりました。祐美子様は獣医師だそうで、東京でなんと鳥専門の医院を開業されているとのこと。絵の方もプロだそうで、絵が実際に売れるそうです。大好評につき、11号でもお願いしました。

11号の内容については、ほぼ従来通りとしましたが、各委員の活躍（武村俊之先生によりますとチカラワザ）で、多数の玉稿をいただくことができました。お忙しい中、執筆していただいた先生方、ありがとうございました。

恒例(?)の特別付録



From Australia with Love

メルボルンで買ったチョコレートです。カラーでお見せできないのが残念です。情熱の深紅です

福祉部だより

滝沢清宏

互助会だより

毎回、例会のプログラムの表紙の下端に、互助会への入会の勧誘を続けて掲載させて頂いている。しかし会員からの新たな申込みは今の所ない。

幸い出動の申込みが少ない（平成15年で4件）ので、どうにか不満足ながら続けられる状態にある。出動して頂いている互助会員に感謝するばかりである。

今後の努力が必要な事は論を俟たないが、担当幹事（私のこと）が健康でないのが問題である。

次期幹事のご尽力に期待したい。

IT委員会だより

浅井俊弥

●ホームページ開設！ \ (^o^)/ ●

11月末の日曜、夕刻過ぎの鎌倉の駅に降り立つと、さっきまでの冷たい雨はあがっていました。ぶらぶらと寺門を抜け、故原紀道先生のお宅に到着すると、尚道先生が出迎えてくれました。私のカバンにはノートパソコンとPHS。さっそく仏壇の写真に向けて液晶画面をひろげ、神奈川県皮膚科医会のホームページ（HP）を立ち上げ、「原先生、ようやくできました。どうぞご覧下さい」と報告して参りました。

HPは原先生がやりたかったことの1つでした。不肖、私はその仕事を任せられました。私としては、HPの作成の

経験は少ないものの、だいたいのパソコンソフトは使いこなせる自信があったので、HPの作成なんて簡単だと思っていました。ところが、始めてみると、デザイン、つまり美的センスと、スクリプトと呼ばれるプログラムの書き方は、少々勉強では手に負えず、結局専門の業者に手伝ってもらうことになり、完成までに2年の月日を要してしまって、とうとう原先生にみていただくことができず、大いに悔いが残っています。

ともあれ、完成したHPはなかなか上出来で、有名どころの検索エンジンでもすでに上位にランクされており、一般の方も1日に60人ほどが訪れています。もっと宣伝が必要かもしれませんが、取りあえず「めでたしめでたし」です。ところが、喜んでばかりもいられません。作る以上に維持管理が大変で、たとえば医院の検索ページには最新の会員情報が提供されていないと患者さんが混乱しますし、皮膚病の話題にしても冬にとびひの話ではふさわしくありません。そういった書き換え作業もさることながら、会員にとっても価値のあるものにしていきたいと思っていますので、新しい企画など、どんどんご意見をいただければと思います。こちらは「楽しく」やっていますので、どうぞご遠慮なく。

HPアドレスは、<http://kanahifu.umin.jp/>です。会員の皆様、週に1度は訪れて下さい。

IT委員会は、このほかメーリングリストの管理運営を行っていますが、今年はいよいよもう1つの柱であるIT機器の展示会をやると思っています。電子カルテ、デジカメ、ダーモスコピーなど、すでに使用されている先生の話と業者の宣伝を合体させ、今後導入を予定されている先生方の参考になればと思っていますので、その辺の情報も是非ご提供下さい。



神奈川県皮膚科医会のホームページ

(IT委員会：浅井俊弥、栗原誠一、袋秀平、杉田泰之、野村有子、天野隆文)

皮膚病サーベイランス 委員会だより



向井秀樹
石井則久

第1回神奈川県皮膚病サーベイランスが、平成15年8月4日～9日のうち5日間実施された。大学病院を除く36施設にお願いして、33施設から集計用紙が送られてきた。

◎参加施設（病院7、開業26）

病院：鎌田英明（社保横浜中央）、川口博史（国立相模原）、菅原信（けいゆう）、高橋泰英（横浜日赤）、宮川俊一（市立川崎）、向井秀樹（横浜労災）、山田裕道（国際親善）

開業：野村有子（神奈川区）、滝沢清宏（西区）、浅井俊弥、杉本純一（保土ヶ谷区）、荻谷英郎（緑区）、増田智栄子（泉区）、岩井雅彦（青葉区）、伊東文行（都筑区）、村上通敏（港南区）、内山光明（磯子区）、平松正浩（港北区）、菅野聖逸、望月明子（川崎市）、金丸哲山（横須賀市）、武沼永治、松井潔（藤沢市）、生野重明、北原敬二（大和市）、田辺俊英（相模原市）、林正幸（厚木市）、米元康蔵（海老名市）、栗原誠一（平塚市）、加藤禮三（伊勢原市）、長島典安（秦野市）、日下部芳志、戸澤孝之（小田原市）

今回初めてサーベイランスを実施した。第一の問題点は、実施期間を8月4日～9日のうち5日間と繰り返してアナウンスしてきたが、開始期間の間違い、実施期間の長短や誤解などがみられた。今後の対策として、実施期間の徹底と参加施設の夏休みの関係から期間を7月末の5日間に変更する予定である。第二に、集計用紙

表1：第1回神奈川県皮膚病サーベイランスの集計結果（年齢別）

疾患／年齢	0～4	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	小計
①単純ヘルペス	0	10	5	8	39	18	5	18	10	11	124
②外陰ヘルペス	0	0	0	0	0	2	2	2	0	3	9
③カポジー水痘様発疹症	1	0	2	1	6	0	1	0	0	0	11
④水痘	2	0	1	0	1	1	1	0	0	0	6
⑤帯状疱疹	1	3	5	5	12	9	6	38	41	53	173
⑥手足口病	16	6	2	0	1	2	1	0	0	0	28
⑦尖圭コンジローマ	0	0	0	0	0	2	0	1	3	2	8
⑧尋常性疣贅	34	171	153	65	138	132	79	78	43	53	948
⑨青年性扁平疣贅	0	1	2	1	8	8	4	1	3	1	29
⑩伝染性軟属腫	91	113	15	1	2	5	1	0	2	0	230
⑪風疹	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	3
⑫麻疹	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	3
⑬伝染性紅斑	2	8	0	0	0	0	0	0	0	0	10
⑭乳児多発性汗腺膿瘍	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
⑮伝染性膿痂疹	182	151	21	4	3	6	2	1	3	2	375
⑯SSSS	3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	5
⑰疥癬	0	0	0	1	1	2	3	0	1	18	26
痂皮型疥癬	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
⑱毛ジラミ症	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
⑲頭ジラミ症	2	14	1	0	2	0	0	0	0	0	19
⑳梅毒（不顕性を含む）	0	0	0	0	0	0	2	4	2	0	8

の送り方であるが、3件がE-mailで残りはFaxであった。一施設あたりFaxは、1日2枚であり5日間で10枚と多く、30施設300枚が送られた。是非とも、E-mailでの集計参加をお願いしたい。

年齢別の集計結果（表1）をみると、軟属腫や膿痂疹は乳幼児期に好発するが、帯状疱疹や疥癬は高齢者に多くみられ、単純ヘルペスや尋常性疣贅ではどの年齢層にも見られる。最も多くみられた疾患は（表2）尋常性疣贅であり、次いで膿痂疹、軟属腫、帯状疱疹そして単純性疱疹の順である。性別では膿痂疹が男性に多くみられたのに対して、単純ヘルペス、疥癬や扁平疣贅は女性に多い傾向がある。

第2回皮膚病サーベイランスは、平成16年2月2日（月）～7日（土）のうち5日間実施する。今回のデータと比較して、皮膚感染症の季節的な変動や違いをみる事ができるものと期待している。

表2：第1回サーベイランスの集計結果（性別、定点毎）

	小計	男性	女性	男/女	定点毎 (28)
①単純ヘルペス	(5) 124	46	78	0.59	4.4
②外陰ヘルペス	9	4	5	0.8	0.3
③カボジ-水痘様発疹症	11	7	4	1.75	0.4
④水痘	6	4	2	2.0	0.2
⑤帯状疱疹	(4) 173	71	102	0.7	6.2
⑥手足口病	28	12	16	0.75	1.0
⑦尖圭コンジローマ	8	8	0		0.3
⑧尋常性疣贅	(1) 948	410	538	0.76	33.9
⑨青年性扁平疣贅	29	7	22	0.32	1.0
⑩伝染性軟属腫	(3) 230	107	123	0.87	8.3
⑪風疹	3	1	2	0.5	0.1
⑫麻疹	3	3	0		0.1
⑬伝染性紅斑	10	4	6	0.67	0.4
⑭乳児多発性汗腺膿瘍	8	5	3	1.67	0.3
⑮伝染性膿痂疹	(2) 375	201	174	1.16	13.4
⑯SSSS	5	0	5		0.2
⑰疥癬	26	7	19	0.37	0.9
痂皮型疥癬	1	1	0		
⑱毛ジラミ症	1	1	0		
⑲頭ジラミ症	19	7	12	0.58	0.7
⑳梅毒（不顕性を含む）	8	5	3	1.67	0.3

学校保健委員会だより

岩井雅彦、北原敬二、村上通敏
武沼永治、田辺俊英、大倉光裕

今年度の活動報告をさせていただきます。

1、神奈川県医師会学校医部会

- 1) 第1回専門校医（専門相談医）にかかわる打ち合わせ会（平成15年5月13日）、出席者；武沼永治、岩井雅彦
専門校医（専門相談医）モデル事業に厚木市医師会が立候補。
- 2) 第2回専門校医（専門相談医）にかかわる打ち合わせ会（平成15年6月10日）、出席者；武沼永治
- 3) 第1回幹事会（平成15年8月7日）、出席者；武沼永治
平成15年7月11日に厚木市専門校医モデル推進委員会が開催され、皮膚科の専門校医は小幡秀一先生に決定。
- 4) 第1回委託事業推進委員会（平成15年9月17日）、出席者；武沼永治
- 5) 第2回幹事会（平成15年11月18日）、出席者；武沼永治

平成15年9月1日より専門校医（専門相談医）モデル事業が厚木市医師会で本格的に開始された。厚木市の公立小学校2校、中学校2校、高等学校1校のモデル校が決定し、精神科、整形外科、皮膚科、産婦人科の専門校医（専門相談医）も決定した。

今年度は、①学校への訪問による関係者への指導及び助言、②電話による相談、③個人面接相談、④講演による啓蒙活動、⑤その他必要に応じた対応を行う予定である。

2、日本臨床皮膚科医学会；学校保健推進委員会

- 1) 第1回学校保健推進委員会（都道府県学校保健委員会合同委員会）（平成15年4月20日、国立京都国際会館）出席者；岩井雅彦
議題 1、ツベルクリン問（予）診票の注意項目「ステロイド使用中の人」について経過報告
〔J. JOCD No 73 July 2002 198（56）記載〕
2、神奈川県医師会による「専門校医（専門相談医）に関する調査・研究」についてのアンケート調査
3、都道府県における皮膚科学校保健活動の現況報告
4、日臨皮学校保健推進委員会編；書籍「おしゃれによる障害（仮）」の作成について
- 2) 第2回学校保健推進委員会（平成15年6月15日、八重洲富士屋ホテル）出席者；岩井雅彦
1、続「おしゃれによる障害」
2、幼児・学童の紫外線予防対策
3、感染症新法の第三種伝染病の「その他の伝染病」に関する日臨皮の見解

3) 第3回学校保健推進委員会（平成15年12月7日、日臨皮事務所）出席者；岩井雅彦

- 1、書籍「おしゃれ障害」岡村理栄子編
- 2、専門校医（専門相談医）、いわゆる「神奈川方式」について
- 3、感染症新法の第三種伝染病の「その他の伝染病」に関する日臨皮の見解について、日野治子先生に執筆依頼（日臨皮雑誌に掲載予定）
- 4、子供の紫外線対策と現状、これからの課題

3、神奈川県皮膚科医会

1) 第111回例会（平成15年3月2日）報告者；岩井雅彦 他

「学校保健における皮膚科専門相談医の実施にあたって」

2) 学校保健委員会（平成15年10月4日）出席者；栗原誠一、村上通敏、武沼永治、田辺俊英、大倉光裕、小幡秀一、岩井雅彦

厚木市医師会による専門校医（専門相談医）モデル事業について皮膚科の専門校医の小幡秀一先生より説明をうける。今後の県皮膚科医会のとりくみについて話し合う。

